

鳥取県総合情報誌

vol.131

とっとり Now

Autumn 2021

巻頭
特集

見守りつなぐ森と生命

共存の道を探り未来へ

特集

地域に光差した舞台芸術の力

「鳥の劇場」15年の軌跡



あーとの森 洋画 谷繁 淳子 2

巻頭
特集

見守りつなぐ森と生命

共存の道を探り未来へ

開運おかげ詣で
因幡と伯耆の神社 神崎神社 (琴浦町) 12

ここにこの人
Human Life 能楽指導者 若川 睦子 13

TOTTORI
おもしろ発見手帖 鳥取県水産試験場 16

鳥取のうま味 素材重視の極上とんかつ 17

特 集

地域に光差した舞台芸術の力

「鳥の劇場」15年の軌跡

VIVA! トットリLIFE
輝くIJUターン者たち 映像制作 (大山町) 24

Voice・読者プレゼント・編集後記 26

□「カメラアイ」「きらり匠人」「企業紹介」は休みます。



巻頭特集：日本固有の希少な動物・ニホンモンガが生息する芦津の森



特集：団員たちが直接学校に出向いて行うワークショップ（鳥の劇場）



表紙イラスト
池平 徹兵

いけひら・てっぺい

1978年福岡県生まれ。島根大学卒。「東京オペラシティアートギャラリーprojectN」、「岡本太郎現代芸術賞展」、「VOCA展」などに出演。今、私が一番届けたい絵は、いつだってパワフル全開の子どもたちの姿だ。映画『るろうに剣心』のロケ地になった仁風閣を舞台に、闇に負けない明るい夜を表現した。



『思春』（油彩、80号、2020年）

皮膚感覚の息遣い

洋画 谷繁 淳子

日本画を思わせる、端正な薄塗りの洋画。一枚ずつ絹地を重ねるように、あるいは一枚ずつ被膜をめくるように、題材の核心に迫っていく手法。このデリケートな皮膚感覚の息遣いは、谷繁淳子さんの作品に通底して、命を尊ぶ内省的な生命線なのだ。

高校時代から本格的に描き始め、「ここに自分がいる」と居場所を見つけて、「日記のような気持ち」で自己表現を試みた。20代から30代は、「石正美術館」（島根県浜田市）に通い、石本正（※）らと一緒にデッサンをして「絵は心」「描く歓び」を体験した。

『思春』は逆光の部屋で、独り座る娘をモデルに、思春期の抱える悩みや不安を表して、薄暗がりにも淡い未来を展望した。同時にそれは、もの思う少女時代の自己を重ねた、繊細微妙な二重投影であり、常に等身大の自己を追求する姿勢でもあろう。

『夢』はこれまた、ストーリーの膨らむ小品だ。運命の象徴であるサイコロが、瓶詰めされたのはコロナ禍の閉塞状況か。しかもなお夢を抱くとすれば、隠喩に富んだ構成と言える。静物を描いても、陰りと屈折と希望の混在―谷繁作品の魅力はここにある。

※石本正＝1920-2015。女性の透き通る肌に究極の美を見いだして、『舞妓』『裸婦』で革新的な日本画を開拓。地位や名誉を求めず、市民とともに描く歓びに徹した。



『夢』（油彩、0号、2020年）

たにしげ・じゅんこ

1974年生まれ。日展会友の山耕行雄に師事。1999年、光陽会巡回展で京都市長賞。2002年、国民文化祭で文部科学大臣奨励賞。翌年、鳥取県展大賞。2014年、二紀展巡回展でテレビ新広島賞。2017年、川上奨励賞。



『とっとりNOW』を定期購読できる
「ふるさと来LOVEとっとり」の
会員募集！

入会
年会費
無料



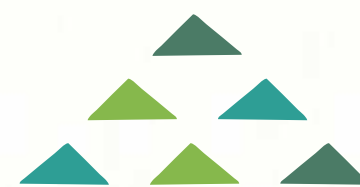


ヤマガラ★



ヤマネ★

見守り つなぐ



森と生命

いのち



共存の道を探り未来へ

鳥取県東部から兵庫、岡山の両県境を

またぐように連なる氷ノ山、扇ノ山、那岐山の深い山々。

豊かな森と溪谷や高原、滝など変化に富んだ地形は、

イヌワシやモモンガ、ヤマネなど

希少な動植物たちの生命を育んできた。

地球の生態系維持を考える今、

森に息づく生き物たちと、それを見守り、

未来につなげようとする人々を訪ねた。

文／萩原 俊郎 写真／田中 良子



オオミズアオ★



ニホンアナグマ★

「あつ、いました！」自然解説専門員の岡田珠美さんは、久しぶりの友だちに会ったようにイモリを大切にすくい上げ、観察ケースに入れた。「おなかに真っ赤なまだら模様があるでしょ。尾が少し紫色なのがオスです」

ここは氷ノ山（標高1510m）の中腹にある「氷ノ山自然ふれあい館 響の森」（若桜町）。本日の「教室」は、同館のすぐ近くを流れるコンクリートの側溝だ。「ちょうど出産ラッシュ。いい時に来られましたね」



「いろんな生き物たちの観察を通して、環境を守ることの大切さを知ってほしい」と話す岡田さん

中国山地で大山に次いで2番目に高い氷ノ山は、国の天然記念物に指定されているイヌワシの生息が確認され、他にもツキノワグマ、ヤマネなど、日本で絶滅が心配される数多くの希少な動物がすんでいる。

「イヌワシの行動圏は40〜100平方キロ、ツキノワグマのオスは平均70平方キロとかなり広い。単独峰の大山と違い、尾根で山々と連なる氷ノ山。広大で豊かな森のエリアが、捕食する獲物や繁殖のパートナーを見つける、縄張りを守るのに適しているのでしょうか」



側溝にたくさん生息するアカハライモリ。繁殖期のオスは青紫に変わった尻尾を巧みに振ってメスに求愛する



イモリ★

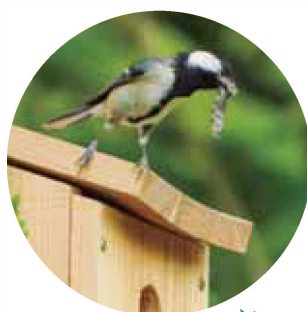
ツキノワグマ★



ツグミ★



ホンドキツネ★



シジュウカラ★

維持する意識が必要

同館では野外体験や自然観察会に力を入れている。岡田さんから突然「ほら」と、数日後の観察会の出番を待つヘビを見せられ、思わず後さり。

「嫌われがちなヘビですが、いなくなると大変。虫↓カエル↓イモリ↓ヘビ↓イヌワシとつながる食物連鎖、生態系のバランスが崩れてしまいます」。実はヘビ君、嫌われ者どころか、観察会は毎回キャンセル待ちが出る人気者らしい。「イヌワシだから、希少だから守るのでなく、『森全体の生き物』生態系を守る」ことが大切、ということとを学んで帰って欲しい

シダサンショウウオ★



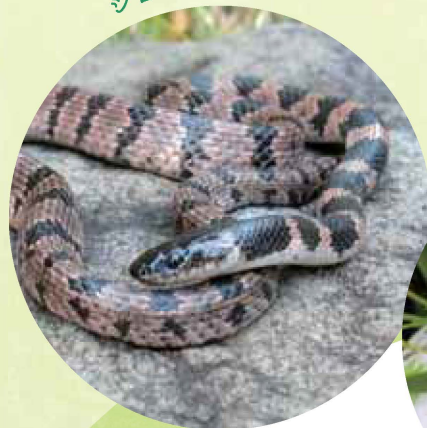
モリアオガエル★



ヒメネズミ★



シロマダラ★



岡 氷ノ山自然ふれあい館 響の森
所 八頭郡若桜町春米635-175
☎ 0858-82-1620 時 9:00〜17:00
休 4〜9月/月曜日(夏休み期間中は無休)、
10〜11月/月・火曜日、
12〜3月/月〜水曜日、12/29〜1/3
※休館日が祝日の場合は翌営業日
利 無料 〻 <https://hibikinomori.gr.jp/>



「環境を守るには、森の価値をみんなで認識し、経済と両立させることが大事」と語る小林さん

「たとえば、飛行機の小さなポルトを一本ずつ抜いていっても、しばらくは何も起きない」。鳥取環境大学教授の小林朋道^{ともみち}さんは、こう切り出した。「でも、いつか飛行機は必ず墜落し始める。そうなってからでは、もう手遅れだ」。希少な生物が少しずつ消え、生態系の維持が危ぶまれる地球。「モモンガも、そんな大切なポルトの一つです」

経済活動と 両立の道探って

芦津モモンガ
プロジェクト

『先生、モモンガの風呂に入ってください！』（築地書館）など、数々の動物の行動と人間との関わりを描いた本で知られる小林さん。芦津の森（智頭町^{ちづちょう}）のモモンガに出会ったのは、忘れもしない2010年1月だった。暖冬で雪が少なく、珍しく山の調査に入れたという。「先生、だれかがこつちを見えています！」。学生の声で見上げると、樹上の巣箱からモモンガが、ひょっこり顔を出していた。夜行性なので目が大きい。『モンマルトル通りの石造りの家の窓から、おしゃれな女性が通りを眺めている感じ』（同書から）。そのまんなまるな瞳にすっかり魅了され、ついには芦津地区の人たちも巻き込んで「モモンガの森」を守るプロジェクトを立ち上げた。

仕掛けた巣箱を慎重にひとつずつ開く小林さんとフィールドワークで学ぶ環境大学の学生たち



調査を重ねる中で、小林さんが出合ったモモンガたち。巣からひょっこり顔を出した場面も★



野外体験ツアーや観察会が好評

氷ノ山自然ふれあい館 響の森



1999年に開館した鳥取県の自然体験施設。ブナの森を再現した日本最大級のジオラマや氷ノ山後山^{しんがのこうざん}那岐山^{なぎさん}国定公園の風景を眺める展望コーナー、学習展示室などがある。「インタープリター」と呼ばれる4人の自然解説専門員が常駐、年間を通じて企画する多様な野外体験や観察会、エコツアーなどが好評を得ている。

1 エントラスホール 氷ノ山お得コーナー

氷ノ山の登山道や植物、生き物などの旬の情報がわかる展示が満載。登山やトレッキングの下調べなどにも便利。

2 体験&スタッフの手作り展示 展望ルーム

大きな窓から臨む山々の眺望が美しく癒やされる。スタッフ手作りのシカ角ヘルメット、「アナグマのお家」などの展示も楽しい。

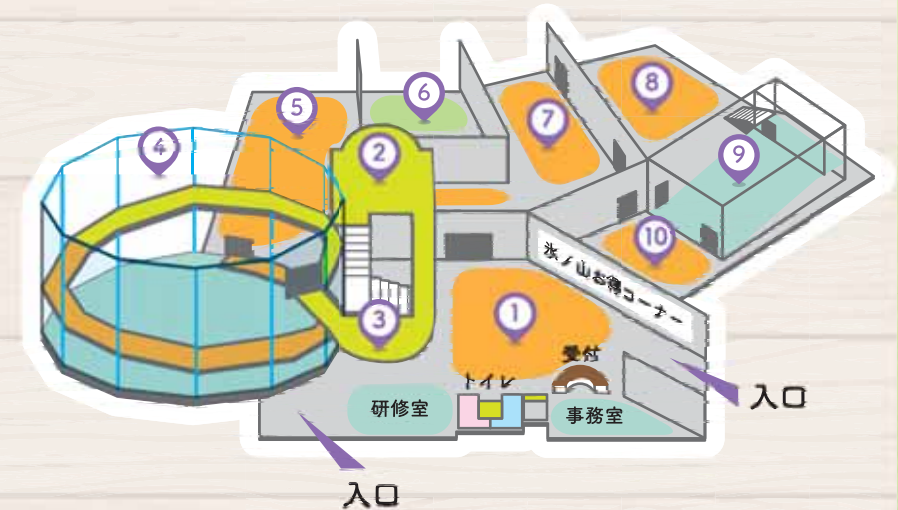
3 キッズコーナー&休憩 くつろぎコーナー

幼児が遊べるマットや、絵本も設置されており、子ども連れでもひと息つける。



4 森のジオラマ

直径23m、高さ10mの展示室いっぱいに氷ノ山のブナの森を再現し、生息する野生動物のはく製などを展示。実際に森を歩いている気分を味わえる。



5 氷ノ山の自然 学習展示ルーム

氷ノ山の歴史や文化、地形地質、動植物を詳しく紹介。夏休みの自由研究などに活用出来る情報が盛りだくさんだ。

6 標本作成コーナー ネイチャーラボ

スタッフが行う昆虫や骨格、植物の標本作りの見学が可能。参加者の質問にも細やかに対応する。

7 遊んで学べる 森の遊び広場

「生きもの天秤ばかり」「このホネはだれだ？」など、子どもが遊びながら学べる仕掛けがあちこちに施され、大人も飽きない。

8 多目的スペース イヌワシホール

100人以上利用できる多目的ホール。団体での活動や講演会、企画展などを開催。

9 イーグルスカイシアター

氷ノ山のシンボルの存在、イヌワシに乗った視点で、県内の雄大な大自然を眺められるアドベンチャームービー。200インチの大型スクリーンが迫力満点。

10 制作体験&自然講座 研修室／ヤマネルーム

草花や木の実を使ったクラフトなどのものづくり体験や、30人規模の講座や研修会が開ける。



モモンガは齧歯目リス科。日本国内には日本固有種のニホンモモンガが本州・四国・九州に、タイリクモモンガ（ユーラシア大陸に広く分布）の亜種エゾモモンガが北海道に生息。鳥取県では県南東部の若桜町、智頭町、八頭町などに分布するが、局所的で個体数も少ないため、県の「準絶滅危惧種」に指定されている。



巣材はスギ、
複数の個体が「同居」

モモンガの特徴や生態

体長は15～20cm、12cm前後の扁平な尾を持ち、前後肢の間に木から木へ飛び移るための飛膜がある。夜行性で目が大きい。樹洞や巣箱をねぐらにし、スギやコナラ、イタシデなど樹木の葉や樹皮、果実などを食べる。

巣材はスギの樹皮で、細かく刻みフカフカのベッドを作る。冬眠しないため、乾燥しやすく保温に優れるスギを選ぶ。また単独行動なのに、巣には複数の個体が同居、する珍しい特性がある。

一見ムササビと混同されやすいが、飛ぶ姿を上から見るとムササビが五角形、モモンガは四角形でムササビよりずっと小さい。生息地も、ムササビは社寺林など人里に近い所にも住むが、モモンガは主に山地の森。

図 芦津モモンガプロジェクト（鳥取環境大学環境学部環境学科）
所 鳥取市若葉台北1丁目1番1号 ☎ 0857-38-6700（代）
Web http://www.kankyo-u.ac.jp/f/introduction/research/sri/news/2013/ashizu/3.pdf



芦津モモンガ
プロジェクト
グッズ例



ペンスタンド、コースターなど、芦津のスギを使った多種類のグッズ。焼き印のデザインは小林さん作

【芦津モモンガショップ】<http://momongashop.blogspot.com/>

「『かわいい』は、動物の特性の一つに過ぎないですから。例えばコウモリだってかわいい以外の特性に魅力を感じるね」と、クールな語り口調の小林さん。だが、グッズの中には自ら描いたキュート過ぎるイラストが。加えて、親を亡くした子モモンガ3匹を、昼夜問わず献身的に育て上げ、森に返したエピソードも…。あふれる愛は隠しきれない。『先生、もっと素直になってください！』

過疎と高齢化が進む芦津の人々を元気づけたプロジェクト。小林さんは今、やはりモモンガが住む扇ノ山に近い「八東ふる里の森」（八頭町）の近くに、研究と保全活動の場をつくれなかと考えている。企業や行政と連携して、「森に訪れた人たちがモモンガに出会え、その魅力を体験してもらえ、施設になれば…」モモンガと人間が共存できる未来を描いている。



巣から出てきたのは、スギの樹皮を細かく刻んで作ったフカフカのベッド



巣箱から出されたモモンガ。体重を測って成長を記録する

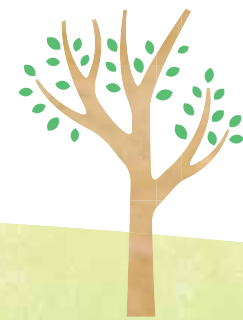


守りながら価値を高める

そこには小林さんならではの「保全生態学」の考え方がある。「大切な野生生物を守れ、だけで人は動かない。経済活動と両立する道、つまりモモンガの森を守ること自分たちの利益が生まれ、森の価値が高まっている、と実感しなければ」そこで同プロジェクトでは、芦津のスギを使ったペンスタンド、木彫りの置物、絵はがきなどのオリジナルグッズを次々開発。同地区の大工さんや環境大学生らが制作して販売、得た収益は制作者への還元と森林の保全・管理に使う。



親を亡くしたモモンガ3匹を育てた小林さん。すっかり慣れて肩や手に乗るまでに。成長後は森に返した★



モモンガの魅力を芦津地区の住民に知ってもらおうと、説明会や調査会同行などを企画した小林さん（写真左）。その後、同地区の施設内に完成した風呂は「ももんかの湯」と命名され、住民との絆が深まった（2011年3月）★



若川

Wakagawa
Mutsuko

睦子

能楽指導者

流れるような動きの中に精妙な緩急をつけ、
多彩な感情を表現する。

そこにあるのは極限まで無駄を省いた美しさ。
能楽喜多流を率いる若川睦子さんは、
男性と同じ音域で謡い上げる気迫のこもった謡と、
古の魂を今に呼び起こす繊細な仕舞（※1）で、
能の奥深い魅力を伝えている。

※1 仕舞＝能の見どころを抜き出し、面・装束をつけず、
紋服・袴姿で舞うこと

文／井田 裕子 写真／山田 真実

開運 おかげ 詣で

因幡と伯耆の神社

拝殿向拝の天井に掘られた龍。7枚の板をあわせて大作で
全長16mにもおよび、「宝珠」をつかむ姿に魅了される



本殿とさまざまな彫刻は県保護文化財。
室町時代末期の創建といわれている

幕末の名工の技が光る社殿

神崎神社 琴浦町

県内の神社に残るいくつかの棟札には、
小倉園三郎の名が記されている



神社めぐりは名工の技に出合う旅
でもある。江戸時代の終わり、因幡に
神社彫刻の名工がいた。名は小倉園
三郎。鳥取藩お抱えの鞍打師であった。
「鞍打師」とは馬の背中に載せる鞍を
作る職人で、彫刻以外にもさまざまな
技術を使いこなすが、格別、園三郎は
仕事の幅が広く、神輿の修理から、社
殿建築の棟梁まで任された。
その仕事ぶりは、琴浦町の神崎神社
の本殿に見てとれる。建築だけにとど
まらず、全体に見事な彫刻が施されて
おり、縁起のよい伝説の獣「鳳凰」
「龍」「猿」やご祭神「素戔鳴命」、牛
馬の守護神らしく牛と馬、他にも鶴、
蝶など多彩だ。1853年の作。
園三郎の門下には「小倉」の姓を名
乗る宮大工が多数いた。拝殿を手がけ
た平次郎は、園三郎の孫とも伝わり、

ご利益 家内安全
海上安全
牛馬の守護

開運アイテム
* 開運昇龍手ぬぐい *
拝殿の竜の彫刻を図案化した
「龍神降臨」と開運を願った
「開運昇龍」の2種類あり。
各500円。

**ご利益
& 開運
アイテム**

園三郎が建てた8年後に火災で失わ
れた拝殿を再建した。この彫刻も園三
郎に負けない見事な技で、向拝（※1）の
天井に「龍」、唐破風（※2）に「波と鬼」、
さらに「浦島太郎」「乙姫」「竜宮城」
など海をモチーフにした海上安全のご
利益にあやかっただけだ。
園三郎は28歳の若さで荒砂神社
（岩美町）の社殿建築の棟梁を任され、
その後も県東部の数々の社殿建築に
関わり、神崎神社社殿が完成したの
が68歳の年。80歳を過ぎても元気に仕
事を続けたという。

文写真／角田 治

協力／郷土研究家 大田 勝也

静と動の間に漂う伝統の美



わかがわ・むつこ

鳥取市生まれ。能楽喜多流教授。16歳から謡と仕舞を習い始める。1981年に謡教士、1985年に仕舞教士となり、双葉会での仕舞指導を開始。1998年に謡教授となる。その後、太鼓、小鼓、大鼓、笛(古備学の龍笛)を習い、ワークショップなどで能の魅力を広める活動に尽力。2021年、喜多流鳥取県連合会会長に就任。



授業後に子どもたちから届いたお礼の文集。「うれしい感想が多く、やりがいがあります」と若川さん

能面をつけているかのような無表情な顔を、少し傾けることで喜びや悲しみを表す。しなやかさの中、一挙手一投足にこもる緊張感が、見る者を古の物語へと引き込んでいく。中腰の状態で頭を上下させずゆつくりと動き、余計な力は抜きながらもどっしりとした安定感があるのは、まさに日々の鍛錬のたまものだ。

能は、完全な形で上演すると一曲が最大3時間近くに及ぶ大曲である。(※6)現在、謡や仕舞は10〜15分ほどで演じられるのが主流だ。また、今回はパンフレット

児童にも親しみやすく

若川さんは、通常の稽古指導のほか、2007年から毎年、鳥取市立修立小学校で6年生の音楽授業として、謡、仕舞、楽器の扱い方などを教えている。「礼儀作法としてまずは、あいさつの大切さから声を出すと、自然と姿勢がよくなり、体も元気になります」。また時に舞台の際には、観客を対



小学校に出向き、能を教える若川さん
写真提供:若川睦子

広めたい能の奥深き魅力

16歳から父に師事
室町時代、観阿弥・世阿弥父子により大成された能。喜多流はシテ方(※2)の5つの流儀のうちの一つで、若川さんの父・榮一さんは、東京で長く喜多流に師事していた。若川さんが生まれる前に父が出兵し、母は故郷・鳥取市へ帰る。戦後、父も鳥取市に帰り、「喜多流双葉会」を創設した。

かつては男性のみに演じることが許されていた能楽。1948年には女性の能楽協会への加入が認められたが、依然として女性の比率は少ない。若川さんはしばらく自身の芸を磨くことに専念してき



多数の演目に出演した若川さん
(喜多流鳥取県連合会創立50周年記念大会、2021年5月)

若川さんは16歳から父に師事し、謡の稽古を開始。父は謡のみを教えていたが、幼い頃から体を動かすことが好きだった若川さんは「お囃子に合わせて舞いたい」と別の先生に師事して仕舞の稽古も始めた。

30代で謡の教士(※3)、仕舞の教士、50代前半で謡の教授を取得。1998年に榮一さんが亡くなった後は、若川さんが双葉会を引き継いだ。「お弟子さんは男性が多く、女性と男性では謡の音階が異なります。男性に指導するため、自分の声を変えるのに3年かかりました」。女性ならではの細やかな気遣いで一人ひとりに合った声掛けを行い、会員の技術向上を支える。

舞台に広がる古の物語

2021年5月9日、鳥取市内で記念大会を開催。これまでは県外から喜多流職分4人、笛や太鼓などの囃子方を招いて、5年ごとに大会を開催してきたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今回は同会会員のみでの発表となった。

大会は、謡によって舞台が展開していく。七五調の美しい韻律で登場人物の心情を表現する。若川さんは素謡(※4)でシテを務めたほか、多数の演目に出演。終盤の演目「唐船(※5)では、囃子入りの舞・舞囃子を披露した。

稽古に励む
喜多流双葉会のみなさん



喜多流鳥取県連合会・喜多流双葉会
☎ 090-8064-2589(若川さん携帯)

※2シテ方=能の役分担のひとつで、主役の「シテ」のほか、「ツレ」(シテの助演者)「後見」(演者のサポート役)「地謡」(合唱)を担う。他にシテの相手役のワキ方、楽器を演奏する囃子方、能の合間に上演される狂言方などがあり、それぞれがいくつかの流儀に分かれている

※3教士=教士・教授ともに喜多流の免状

※4素謡=囃子、舞もなしに座ったまま謡うこと

※5唐船=唐から囚われの身となり日本に来た祖慶官人が、唐から迎えに来た子どもたちと日本で設けた子どもたちと一緒に唐へ帰ることになり、喜びのあまり船中で舞を舞ったという話

※6能楽の公演時間=全体で約2〜3時間ほどで、能と狂言を1作品ずつ、あるいは能・狂言・能と交互に上演するのが一般的



サククリ柔らか、 とろける甘み

文／井田 裕子 写真／佐野 明美

サクサクの衣に、口いっぱい広がる肉のうま味。揚げたてのとんかつの前に、笑顔にならない人はいない。「かつ膳」は、選び抜いた素材を最高の技術で提供するとんかつ専門店だ。

店主の加納卓治^{たくじ}さんは、83歳の今もかくしゃくと厨房に立つ。東京で洋食の料理人をしていた26歳の時、東京オリンピック（1964年）で選手村食堂のコックに選ばれた。「世界中のコックが集まって、活気にあふれていた」と鮮明に語る。地元^{よなご}の米子市に帰ってからは、大型店「やよいデパート」の食堂を任され、大変なにぎわいだったという。約30年前、食堂経営から身を引き、現在の場所に店を開いた。

大山町^{だいせんちやう}で丹精込めて育てられた豚や日野町^{ひのちやう}産の米、地元産の野菜など、素材にはとことんこだわっている。「ロースかつ膳」「ヒレかつ膳」を定番に、大根おろしとポン酢で食べる「おろしねぎロースかつ膳」や「梅しそかつ膳」は、特に女性に人気が高い。

いずれも肉厚なのにやわらか、かむごとに豚肉の甘味がとろりと溶け出す。極上の味を求めて、県内外から客足は絶えない。「とにかく健康に気を付けて、マイペースでやっていきたい」。生涯現役で腕を振るう。

■■ 素材重視の極上とんかつ ■■



定番の人気メニュー「ロースかつ膳」(1380円)。小さなすり鉢でごまをすり、たれに合わせていただく。カツカレー(1180円)も隠れた人気メニューだ。※金額は税込み

かつ膳

所 米子市夜見町3076-13
☎ 0859-29-6693
営 11時～14時、
17時30分～20時
休 月曜日

鳥取県水産試験場

所 境港市竹内団地 107
☎ 0859-45-4500
WEB <https://www.pref.tottori.lg.jp/suishi/>

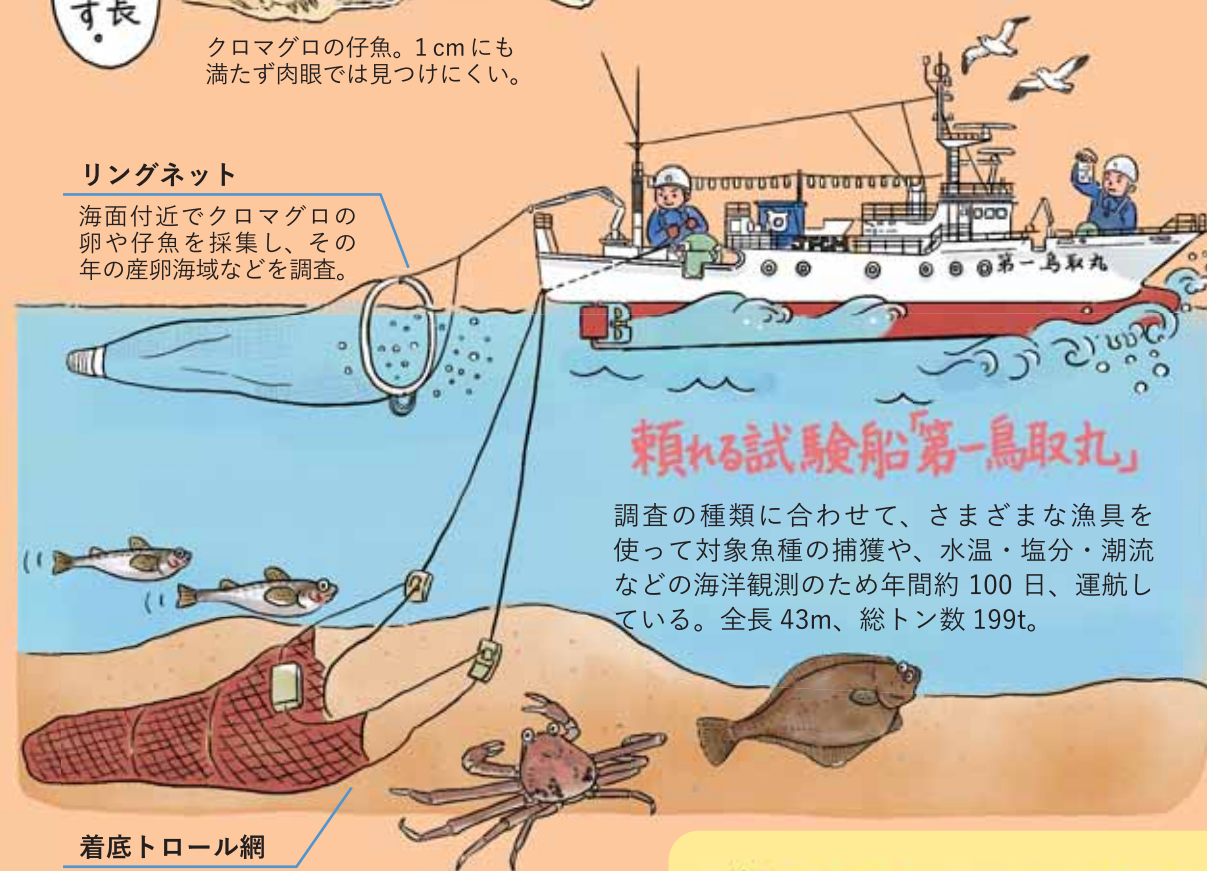
末永く取り続けるため、 魚と海を知る



クロマグロの仔魚。1cmにも満たず肉眼では見つけにくい。

リングネット

海面付近でクロマグロの卵や仔魚を採集し、その年の産卵海域などを調査。



着底トロール網

海底にすむズワイガニ、ハタハタ、カレイ類の分布量を調査。

付加価値をつけ ブランド化へ

同じ魚でも「鳥取県で水揚げされた魚」を消費者に選んでもらうためには、差別化が必要で、そのための試験研究を実施。今年度から、窒素や酸素の微細な泡を発生させた海水を用いた品質保持の試験を行う。魚の血合い肉の色の鮮やかさが保てたり、エビの変色を抑えたりする効果が出る処理方法の開発を目指している。

文・イラスト／雲坂紘巳（くもさか・ひろみ）
納豆が大好きなイラストレーター。1982年生まれ、鳥取県育ち。ぶるぶるした食べ物が好きなことから、屋号は「スタジオぶるり」。
WEB=<http://dururi.com>

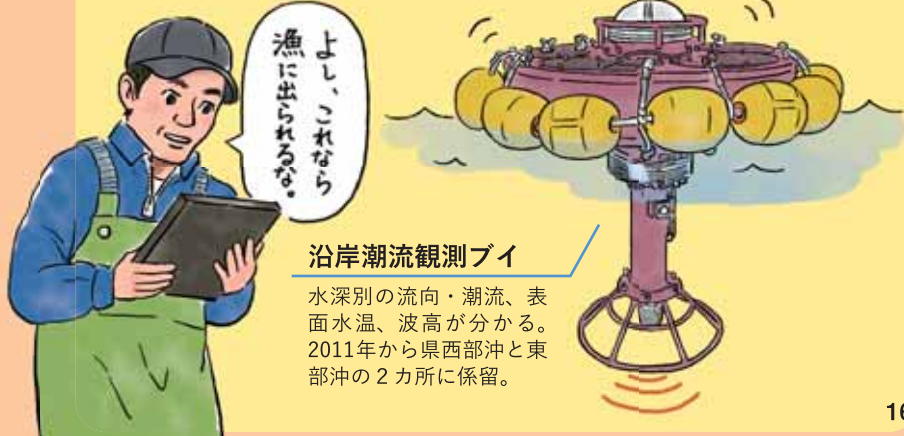


VOL.5

今日の潮の流れは？今後魚は取れるのか？…自然相手の漁業には、海洋環境や水産資源の現状把握と予測が欠かせない。その役割を担うのが鳥取県水産試験場だ。海上や市場に赴いて調査を行い、その結果を漁業者へ提供。さらに県産魚のブランド力向上への研究など、多岐にわたる漁業を支えている。

漁業者に役立つ「海中の天気予報」

潮の流れがリアルタイムで分かる「沿岸潮流観測ブイ」からの情報をインターネットなどで公開。また潮流、水温、塩分の観測を漁業者に依頼し、潮流ブイのデータも利用し、まずは3日先までの海中の状態を予測する「海中の天気予報」を作成中。今後はこれをスマートフォンやタブレットで見られるように公開する。



地域に光差した

舞台 芸術の力

「市街地から離れた鹿野町に劇場？」
15年前、耳にした時は疑心暗鬼だった。
しかし年々、杞憂だったと知る。
彼らは演劇を、人々の想像を超えたかたちに
発展させながら地域とつながり、
私たちに舞台芸術の力を教えてくれた。
劇団「鳥の劇場」の周りには、笑顔があり、
発見があり、未来への希望がある。

文／鳥飼 明子 写真／山内 一峰・中野 恵美

「鳥の劇場」
15年の軌跡



「じゅう劇場」の取り組み

自分らしい生き方とは、本当の自由とは――。障がいのある人、ない人が一緒に集まって、観客の魂に訴えかけるような感動の舞台を創り出している「じゅう劇場」。鳥の劇場のプロデュースで2013年8月に活動開始、今年9年目に突入する取り組みだ。

稽古と本番に出られるのであれば障がいの有無も、演技経験も問わない。さらに特徴的なのは、参加者からこれまでに感じた喜びや怒り、悲しみ、恋愛や差別など人生の経験を丁寧に聞き取り、ストーリーやせりふに反映すること。構成・演出を手がける中島さんは、「演技のテクニックがなくても、その人が発した生の言葉や実際に感じた気持ちなので、自然に表現することができる。それは舞台にいい効果をもたらしている」と話す。飾らない言葉と素直な表現だからこそ、観客の心にストレートに響くのだ。

「出演者は皆、何かしらの生きづらさを抱えているが、感じている喜び、苦しみ、痛みはその人の記憶の中にしかない。

魂に訴える感動の舞台、海外でも評価



「ロミオとジュリエット」から生まれたもの-2017
(2017年9月)★

劇場はそれを再現し、多くの人と共有する場となるべき」だという。ゆえに作品はいつも、強いメッセージを放つ。

県内のみならず、過去には県外・国外でも上演しており、フランス・ナント市で開催された障がい者の文化芸術国際交流事業「2017 ジャパン × ナントプロジェクト」では、現地の観客から大喝采が起こった。

感動は、観客だけのものではない。「演劇が生きがいになっている」「自信につながった」と、出演者自身の励みにもなっている。続けて参加する人も多いが、新規参加の輪も広がり、今年は16人が集まった。過去3回上演し、好評を博した『「ロミオとジュリエット」から生まれたもの』の新バージョン上演(2021年9月11・12日)に向けて稽古を重ねている。

「障がいのある人の恋愛にどんなことが起こるのか。差別の問題もある。新しいメンバーの、新しい物語を観てほしい」と中島さん。シェイクスピアの戯曲に乗せて展開する彼らの人生を共有できたとき、きっと心の中に何か生まれるはずだ。



「ロミオとジュリエット」から生まれたもの-2017 (2017年9月)★



鳥の足形が目印の鳥の劇場。広々とした校庭が駐車場になっている

試行錯誤重ね、多様な取り組み



「いろいろあったがようやく15年。これからも表現活動を継続していきたい」と中島さん

閑静な城下町として知られる鳥取市鹿野町。16世紀に大名・亀井茲矩が治めていた鹿野城跡のすぐそばに、「鳥の劇場」はある。廃校になった幼稚園・小学校をリノベーションした劇場の外壁には大きな鳥の足形が。遠目にもよく分かるモチーフがかわいい。最大定員は200人、公演のたび多く人が訪れる。

立ち上げは2006年、演劇の中心は東京などの大都市であり、少子高齢化が進む鳥取のような地方には向かないと思われていた時代のこ
と。特定非営利活動法人鳥の劇場代表理事・芸術監督の中島諒人さんは、「欧米では地域ごとに劇場があり、生活の中に演劇が根付いている。私もそういうことがしたいと思ったんです」と、当時を振り返る。自身も東京で劇団を主宰していたが、富山、静岡、高知などでも、さまざまな経験を積み中で、自分にできることを模索。無謀と言われようとも、故郷・鳥取で思い描いたビジョンを実現しようと決意した。

今年で丸15年。「地域の皆さんにどういう形で演劇と出合ってもらい、いかに『演劇はいいものだ』と価値を見いだしてもらうか。試行錯誤を重ねた年月でした」と中島さん。【創る・招く・いっしょにやる・試みる・考える・成長の支援】の6本柱で年間プログラムを組む。公演活動はもちろん、子どもたちと一緒に舞台作品をつくる「小鳥の学校」、ワークショップ、若手演劇人の成長サポートのほか、障がいのある人と一緒につくる「じゅう劇場」、出張公演など、さまざまな取り組みを行っている。

毎年秋に開催する「鳥の演劇祭」は一大イベント。例年は、国内はもとより欧米、アジア各国から文化芸術団体を招へいする国際演劇祭で、約3週間のイベント期間中は、世界中の舞台芸術を満喫できる。カフェや雑貨、作品展示といった出店イベントもあり、観劇の前後に鹿野町内の観光や温泉を楽しむ人も多く、地域活性化にもつながっている。



幼稚園の雰囲気がそのまま残る場内

昨年の「鳥の演劇祭」。公演は、新型コロナ対策のため、初めて外に舞台を作って上演した(2020年9月)★



★= 写真提供：鳥の劇場

入団は2012年。衣装づくりの手が足りないとの話を耳にして、「洋裁が得意なので、次の日にはミシンを持って手伝いに行った」のがきっかけだという。安田茉耶さんは、高校で演劇に出会い、公演後に浴びる拍手の高揚感が忘れられなかった。当時鳥根県の市民演劇に参加していたが、「衣装を縫いながら、鳥の劇場で働けたら楽しそうだな」と思い、中島さんに直談判した。



俳優・衣装 安田 茉耶さん

衣装をパターンから手作り

身長148cmと小柄だが、舞台上ではそう見えない。独特の存在感があり、つい目が追いかける。舞台の空間はお客さんと一緒に創るもの、と思っている。それだけにコロナ禍で公演が配信になったとき、がらんどうの観客席を見てなんともいえない気持ちになった。「でも終演後に、SNSでたくさんコメントが寄せられたんです。しかも何回も見てくれた人もいて」、いつもと違う反響がうれしかった。

入団以来、衣装担当も任されており、自らデザインし、パターン（型紙）から起こす。「自分も役者だからか、その人の稽古を見て、演じようとしている役柄のイメージを膨らませて作ります。メイクも私が考えるんですよ」と安田さん。キラキラ輝く瞳には、演劇が好きで好きでたまらないという思いがあふれていた。



もうひとつ特色があるのは、地元の小中高生を対象にした表現ワークショップ「トリジューク」だ。現在、鳥取市立逢坂小学校、鳥取市立鹿野学園、鳥取県立青谷高等学校の3校で行われている。中でも鹿野学園は、学校独自のカリキュラム「表鵞科」を設置。児童生徒たちは、学年ごとに演技やダンス、ジェスチャーゲー



子どもたちが生き生きと取り組むワークショップの時間。劇団員のアドバイスによって意見を出し合い、楽しみながら表現方法などを学ぶ

子どもたちの表現力磨く

ム、映像撮影・編集などいろいろな手法で自分を表現すること、人の表現を理解することに挑戦。その授業に団員たちが講師として招かれている。

中島さんは、「普段あまり話さない子が、ワークショップで生き生きと輝き始めるということがよくある。また、地域の方に鳥の劇場のことを具体的に知ってもらえるきっかけにもなっています」と成果を語る。



逆境でも揺るがぬ信念

ところが、昨年からのコロナ禍で今年も公演は一時オンラインのライブ配信となり、海外団体の招へい・海外公演はできなくなり、どの事業も規模の縮小を余儀なくされた。苦しい今をどう乗り越えるか、ここが踏ん張りどころだ。

つでも体験できる環境があることが大事。それが本当の意味での「地方創生」につながる」と、中島さんは演劇の必要性和可能性を見据える。振り返ってみれば最初の緊急事態宣言発令時、生の舞台鑑賞や文化芸術体験を抑制された私たちは、その必要性を身をもって知ったはず。今ここにある、鳥の劇場の存在を誇りにしたい。



「社会に不可欠な存在」を目指す

「はじめは鳥取でやっていけるかどうか不安で。でも公演には、地域の方がたくさん来てくれて、僕を芝居を生業としている人、と見てくれた。東京では生計を立てるために別の仕事もしていて、『職業は俳優です』なんて言えなかったけど、ここでなら俳優として生きられる、と思った」

そう話す齊藤頼陽さんは、起ち上げメンバーの1人で、この15年中島さんと共に鳥の劇場を牽引してきた俳優だ。主役はもちろん、物語のキーパーソンなど、ほぼ全ての作品に出演。役柄を深く理解し、磨いてきた演技力で観客を舞台へと引き込む。

演劇を通じて地域の役に立ちたい、という意識が人一倍強い。だから教育現場へ積極的に出掛け、子どもたちとのワークショップに力を注ぐ。また、65歳以上の参加者を募り、リーディング公演（※）を行う「おとなな劇場」も、齊藤さんが主体となって動かし続けている企画だ。

2016年には副芸術監督に就任、これまで以上に「鳥の劇場ができること、を意識するようになった。『劇場を図書館や病院と同じくらい、『社会に必要なもの』と思われる存在にしたい』という。壮大な目標を聞いて、舞台の幕が上がる直前のように胸が詰った。

※リーディング公演：台本を手に持ったまま演劇を進めていく公演形式



副芸術監督・俳優 齊藤 頼陽さん

鳥の演劇祭14 Schedule

第1週 2021年 9月11-12日

「私」の向こうに何を見る？

- 大澤真幸(社会学) × 播磨靖夫(アマチュア思想家)
- 「ロミオとジュリエット」から生まれたもの(じゅう劇場)
- プレヒト版「アンティゴネ」(鳥の劇場)

第2週 2021年 9月18-19日

「想像」の向こうに何を見る？

- 塚本由晴(建築家) × 中島諒人(演出家)
- おとしモノ(累累)
- 戦場のピクニック(中島諒人演出)

第3週 2021年 9月25-26日

「図工」の向こうに何を見る？

- 亀山達矢(絵本作家) × 荏宿俊文(教育学)
- すてきな三にんぐみ(鳥の劇場)
- みつばち共和国(SPAC-静岡県舞台芸術センター)

園 特定非営利活動法人鳥の劇場
所 鳥取市鹿野町鹿野1812-1
☎ 0857-84-3268
🌐 <https://www.birdtheatre.org/birdtheatre/>
📘 <https://www.facebook.com/birdtheatre/>



映像制作(大山町)

貝本 正紀さん

奈良県出身

- ◎家族構成／妻、子ども5人
- ◎移住前の住まい／東京都
- ◎移住時期／2015年4月
- ◎現在の仕事／映像制作

株式会社アマゾンラテルナ
鳥取大山オフィス

〒西伯郡大山町富長159-1-2F
☎0859-54-3785

人を資源に番組づくり 地域に活気を生み出す

子どもからお年寄りまで約半数が視聴しており、家族や地域に共通の話題をもたらしている。「海も山も土地も空き家も山ほどあって余白がたくさん。地域の課題は資源です。これからも町の人と面白いことを企画し、新しい人のつながりを生んでいきたい」と、意欲を燃やしている。

同町に抱く印象は、「フレンドリーでユーモラス」。初めて訪れた日から、町民の個性豊かな人柄に魅了されている。貝本さんが手がける超住民参加型の番組づくりは、レポーターもナレーターもすべて町民で、2021年5月の時点で総勢2730人が参加。企画会議では、さまざまな世代の住民が集まって地域の課題や悩みを出し合い、貝本さんのリードで解決策になるような番組を企画する。



近所に子どもたちが集まる場所がなかったため、貝本さんが空き家を改修して作った遊び場「YOTTE」。幼児から高校生まで無料開放している★



★写真提供：貝本正紀

From Tokyo

2015年に大山町に移住した貝本正紀さんは大山町営ケーブルテレビ「大山チャンネル」で企画から制作まで町民とともに番組制作を行う。メディアの多様化で家族や地域に共通の話題が失われつつある中、町民のための町民による番組づくりで地域に新たなつながりを創出している。

「本当に喜ばれるメディアって何だろう」。東京の映像制作会社で全国ネットのテレビ番組の制作に携わっていた貝本さんは、各地取材する中で疑問を抱いていた。自然災害の被災地域の取材では、東京向けの番組づくりに対して「自分たちに役立つ情報が少しもない」と被災者から言われた経験も。「誰のためのテレビ番組か」と考えていた2014年、地域活性化の取材で訪れたのが大山町だった。

当時、大山町は「楽しさ自給率の高いまちへ」をテーマに町づくりの総合計画が議論されており、貝本さんは住民が積極的に意見を出す姿に興味を覚えた。町営ケーブルテレビの担当者や当時の町長と話す機会にも恵まれ、主に行政情報を流していた番組を「町民と一緒に地域の人が見たい番組をつくり、まちづくりに生かせないか」と提案。



子どもたちも出演する番組での撮影は和気あいあい(写真左)
定期的に開く企画会議で活発に意見交換する住民たち(写真下)★



「ないならつくる」発想で

移住後の暮らしは「創造の連続」という。「東京の暮らしは既存の遊び場、店、仕事を効率よく選択するのが一般的ですが、ここには都会のような選択肢はない。じゃあ自分たちでつくればいい。今まで使ったことのない筋肉を使っている感じで楽しいです」と、生き生きと語る。

【IJUターンの相談窓口】

公益財団法人 ふるさと鳥取県定住機構

- ☎ 鳥取市扇町115-1
- ☎ 鳥取駅前第一生命ビル1F
- ☎ 0857-24-4740
- 🌐 <https://furusato.tori-info.co.jp/>

IJUターン就職に関する相談

- ☎ 0120-307-238
- (8時30分～17時15分※土日・祝日除く)

移住に関する相談

- ☎ 0120-841-558
- 🌐 <https://furusato.tori-info.co.jp/iju/>

巻頭特集の鳥取県産業技術センターの記事が面白かったです。試験分析、研究開発、起業化への支援などあらゆる分野にまたがり、多岐にわたる仕事内容を知って驚きました。

(兵庫県姫路市 鷹家 健太)

「ここにこの人」の福楽さん。再生した樹木がなんと全国2000カ所も！何年もの間、地味な仕事のようにですが、再生された樹木に癒やされ、希望を持った人は多いと思います。人とのつながりで、自身の人生をも再生させた福楽さんの生き方に感動しました。

(広島県三次市 林 敏明)

今回初めて『とっとりNOW』を読みました。A4サイズでオールカラー、工夫された誌面構成、とても読みやすかったです。私は隣の島根県に住んでいながら、知らないことばかりだと思いました。ほんとにすごい方々がたくさんおられますね。特に「この人」に登場した福楽さん。人柄の良さを感じ、さらに仕事をしていくうえで大切な事を教えたような気がしました。

(島根県安来市 中前 ゆき)

今回からスタートした「開運おかげ詣で」の白兔神社で思い出がよみがえりました。48年前、鳥取大学を受験した際、「多分、不合格だ。二度と鳥取の地を踏むことはないだろう」と記念に訪れたのです。しかし縁あって合格。鳥取を第二の故郷とすることができました。鳥取での青春時代が今の私を支えています。

(長野県松本市 松田 和久)

『とっとりNOW』を今まで図書館で読んでいましたが、130号から無料となり、うれしいです。今回は「カメラアイ」の写真に癒やされました。

(岩美郡岩美町 小林 康子)

ものづくり、料理や観光地、さまざまな楽しい紹介記事に接し、心温まりました。毎号、故郷の鳥取の良さを強く実感し、うれしく拝読しています。

(滋賀県野洲市 有田 繁実)

■応募方法

下記の項目を記入し、ハガキまたは電子メールでご応募ください。

- ① 希望の商品記号または商品名
- ② 掲載記事への意見・感想
- ③ 応募用クイズの答え
- ④ 住所・氏名・年齢・電話番号

※②の感想が次号の「voice」に掲載される場合、住所・氏名が明記されることをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。

●応募用クイズ●

Q 国の天然記念物で水ノ山(若桜町)のシンボリック的存在となっている鳥の名前は何? □に3文字を記入してください。

□ □ フ □

130号のクイズの答えは「キキョウ」

■応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)
「とっとりNOW読者プレゼント」係
メールアドレス: now@kouhouren.jp

応募バッチ

2021.
9/30
消印有効

A



と
魚ととりてぬぐい
(36cm×90cm)

【3名】

松葉がに、ハタハタ、ヒラメ、イワガキ、ババア…。日本海に生息するさまざまな魚介類を網羅した手ぬぐい。「TOTTORIおもしろ発見手帖」(16頁)の作者・雲坂紘巳さん作。

問 gallery shop SORA

☎ 0857-29-1622

鳥取県絶滅危惧種ラベル
純米酒 玉栄 (720ml)

【3名】

県内産の酒米・玉栄と千代川の伏流水を使い、柔らかい口当たりと優しいうま味が特徴。精米歩合55%、常温・ぬる燗・熱燗いずれも美味。ラベルは智頭町に生息するモモンガ。

問 諏訪酒造株式会社

☎ 0858-75-3141

B



C



小泉八雲
塩バターポルボローネ

【3名】

作家・小泉八雲が琴浦町を訪れて130年を記念して作った。ポルボローネは、スペイン発祥の〆幸運を呼ぶ菓子。1cm四方の食べやすいサイズで口に含むとほろりと溶ける。

問 宝製菓株式会社

☎ 0858-49-5555

Editor's note □■編集後記■□

あのころのトキメキがよみがえった。生きものが好きで、学校帰りに何かしら見つけ、長時間見入った子ども時代。観察会&調査会の同行取材(4頁)に前日からワクワク。▼まずは繁殖期のイモリ。メスの手厳しい審査にもめげず、必死に追い続けるオスの姿は、ほんとにけなげ。解説によって意味がわかり、愛おしさが増した。▼次はモモンガ。「いない可能性も高いよ」と、小林

先生にくぎをさされるも「いる!絶対!」と根拠のない自信をひっさげて現地へ。▼仕掛けた巣箱を調べ歩き、数時間。ついにその時が!はしごの上の先生が巣箱を素早く閉じた。もしや…もしや…声をひそめて待つ。すると先生の手ひらから、クリクリの目が!瞬間、もう…感無量。魅了され言葉が出なかった。▼「ただ必死に生きる」生きものたちを目にし、心の洗濯。ができた1日。子どものころの純白ハートは無理でも、ベージュくらいには戻れたかなあ。【Hi】

